

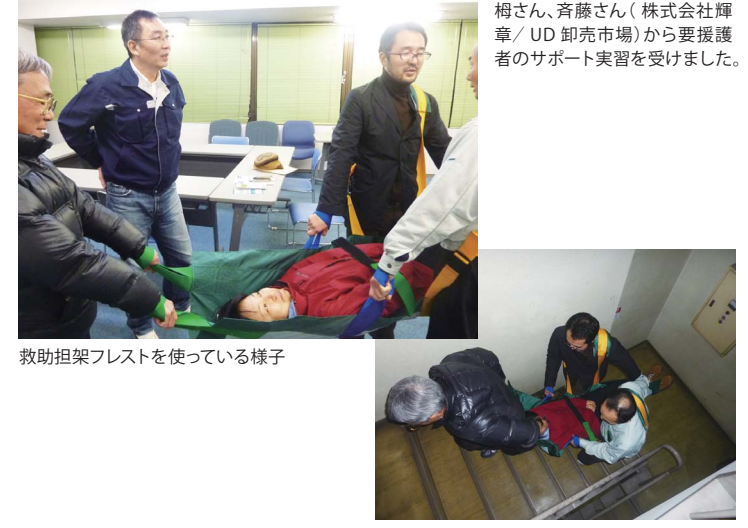
要援護者の避難って？

- ・災害が発生した時、高齢者や障がい者といった方々（要援護者）は早急な避難が困難です。
- ・要援護者の避難は、消防隊だけでなく、地域の手助けが必要です。
- ・今までの消防訓練は火災時、地震時などだけを想定していたので、水平移動しかなく上下移動の訓練が行われていませんでした。ですが、津波から避難するためには、高いところに逃げなくてはならないため、上下移動が必要になります。
- ・上下移動を伴う要援護者の避難を支援するための防災グッズが地域の人でも使いやすい形で開発されています。

●要援護者のサポート実習

要援護者の避難の支援について学ぶために、2月27日に、あおぞら財団にて、要援護者防災用品の開発者をお招きして、要援護者のサポート実習を行いました。

- ・実習には、西淀川区の企業が開発した要援護者防災用品「救助担架フレスト」と「救助用おんぶひも」を使いました。
- ・「救助担架フレスト」は布製なので、棒担架とは違って、小回りがきき、上下移動しやすいのが特徴です。
- ・「救助用おんぶひも」を使えば、後ろの人が、前の人につかまっていなくても大丈夫です。



桐さん、斉藤さん（株式会社輝章 / UD 卸売市場）から要援護者のサポート実習を受けました。

救助担架フレストを使っている様子

実習に参加した人の感想

救助用おんぶひもを使っている様子

布製担架のメリット（小回りがきく、楽、安心感）がよくわかった

「明日は我が身」という気持ちで考える人を増やすことが大事

理解者、サポーターを増やそう

西淀川交通まちづくりプロジェクトからの提案

あおぞら財団では、西淀川区内の移動環境を少しでもよくしていくために、市民が行動をおこすきっかけづくりとして、西淀川交通まちづくりプロジェクトを継続的に行っています。2011年度は、「防災まちづくり」に取り組み、西淀川で災害が起きた場合を想定した避難について、市民のみなさんと一緒に調査をしたり話し合いを積み重ねています。



交通まちづくりプロジェクトの様子

今年度調べたことや話し合いの内容をまとめたものが、この「にしよどがわ防災まちづくり通信」です。この活動は、継続的に行っていく予定です。興味のある方は、ぜひ参加してください。

話し合いの中で出て来た意見

●**体験から学ぶことの大事さ**

- ・西淀川の洪水の記憶、阪神・淡路大震災を忘れつつあります。ほりおこしてはどうでしょうか？
- ・どうやって助かったのか、どうやって他の人を誘導したのかななどの体験者の話を聞いてみたいと思います。

富田さん

●**市民の力が大事**

- ・公が何もかもしてくれるところから脱皮し、個々で考えていった方がよいと思います。
- ・危機管理を個人が意識できるようにする工夫が必要です。

高川さん

●**災害への備えについて**

- ・津波は上、地震、火災は下に逃げる。状況によって対応が違います。
- ・どこに逃げるべきかは地域ごとに決めていく方がよさそうです。
- ・災害時に、避難施設を知らない人を誘導できる看板が必要だと思います。

新川さん

●**災害発生時の呼びかけ**

- ・誰かが「逃げる」といえば、それについていく人も多いと思います。地域ごとにみんなに「逃げる」と呼びかける体制が必要だと思います。日常的に防災無線を活用してはどうかと思います。

小坂さん

●**住民目線の情報がほしい**

- ・高齢者などの弱者の視点からの情報がほしいと思います。高齢者、障がい者、子どもに早く伝えて逃げさせたいと考えています。

松尾さん

非常時に持ち出すもの

非常時に持ち出すモノは、一人一人違っています。どんなものが必要なのか考えてみましょう。



携帯ラジオ・電池

軍手

飲料水

現金・小銭

非常食

懐中電灯・電池

ラップ・アルミホイル

下着・生理用品

雨具

マッチ・ライター

健康保険書などのコピー

予備のメガネ
補聴器・入れ歯など

救急用品

災害時緊急連絡先

西淀川区役所	06-6472-1247 (災害時専用電話)
西淀川警察署	110 (06-6474-1234)
西淀川消防署(火災・救急)	119 (06-6472-0119)
水道局北部工事センター(水道)	06-6391-6303
大阪ガス(ガス漏れ)	0120-0-19424
関西電力(電気の事故)	06-6582-2881
環境局西北環境事業センター(ごみ)	06-6477-1621
建設局公営局(道路・橋)	06-6306-1881
建設局海老江下水道センター(下水)	06-6462-1437
NTT災害用伝言ダイヤル(大規模災害時に開設)	171

災害への心得

- ①日頃から近所づきあいを大切にする
- ②避難場所や順路を決め、確認しておく
- ③危険な箇所を頭に入れておく
- ④高齢者や障がい者の居場所を知っておく
- ⑤防災訓練・活動に参加しイメージを持っておく